

国語⇒言語に関しては、言語に関心をもたせ慣用句やことわざなどの習慣化を図ったが、活用までには至らない。書くことにおいては、質問の意図や条件について見直すことを通して、主題にあった文を書くことはおおむねできるようになった。

社会⇒問題に対する「めあて」を正しく捉えさせた上で、資料のどこに着目すればよいかを判断する力はついてきた。ごみ処理や水道、災害における基本的な言葉は、おおむね理解できている。

算数⇒計算、図形、数量に関する基礎となる学習の定着はおおむねできている。しかし、計算などの手順やきまりを覚える、数直線を使って、数の関係性を捉えるためには時間を要する。

理科⇒知識・技能は定着している。知識と、日常生活の中で起こる事象を関連付け、予想をもった上で、実験・観察に取り組み、自分の考えが正しかったのか判断している。また、実験・観察から得られた結果から、4年生なりの考察ができるようになってきている。さらに、「では、この場合はどうだろう？」と考えを広げたり次の課題へ考えをつなげたりしていけるよう、グループでの話し合い活動など積極的に取り入れていきたい。

I 大田区学習効果測定の結果と概要

△：正答率の平均が目標値を上回った教科・観点

≡：正答率の平均が目標値と同程度の教科・観点

▼：正答率の平均が目標値を下回った教科・観点

教科	国語		社会		算数		理科	
全体	≡		≡		≡		≡	
観点別	≡	≡	≡	≡	≡	△	▼	≡
	知識・技能	思考・判断・表現	知識・技能	思考・判断・表現	知識・技能	思考・判断・表現	知識・技能	思考・判断・表現

1 教科全体

4教科すべてにおいて、全体の正答率は目標値と同程度となった。特に国語・社会・算数では、基礎よりも活用問題の方が目標値との差が大きく、基礎だけでなく活用力も身に付いてきていることが分かる。

2 観点別

「知識・技能」の正答率は、国語・社会・算数は、目標値と同程度であるが、理科は、目標値を下回る結果となった。一方、「思考・判断・表現」の正答率は、目標値を上回る、もしくは、同程度となり安定している。

Ⅱ 教科ごとの授業改善プラン

1 国語・社会・算数・理科

【国語】

領域別にみると、全領域において正答率が目標値を上回った。特に「我が国の言語文化に関する事項」は10.7ポイント、「情報の扱い方に関する事項」は5.7ポイントと大きく上回った。これらは、慣用句や俳句等の言語活動が定着した、また、情報の比較や分類の方法が身に付いた等の成果と言える。一方で、問題の内容別にみると、「漢字を書く」「調べたことをもとに文章を書く」が目標値を下回った。改善するために、毎授業終末の振り返りの時間を充実させたり、単元末の言語活動において書くことを中心に据えた課題を設定したりすることで、書く機会を意図的に増やしていくようにする。

【社会】

領域別にみると、「自然災害からくらしを守る活動」「先人の働き」では、正答率が目標値を上回った。「生活環境を支える活動」では、正答率が目標値を下回る結果となった。社会の学習に必要な用語を覚える時間を設ける。また、地図やグラフから読み取る力を身に付けられるように、資料を読み取る機会を意図的に増やした授業づくりをしていく。

【算数】

領域別にみると、「変化と関係」と「データの活用」では、正答率が目標値を約8ポイント上回った。特に「データの活用」は、昨年度も高い結果を示していたことから、得意分野であることが分かる。一方で、「数と計算」と「図形」の正答率は目標値と同程度であるが、計算のきまりを使った問題やひし形の作図に関しては、目標値を下回る結果となった。いずれも基礎問題の復習機会を増やし、知識・技能の向上を図っていく必要がある。なお、割合や角の大きさの記述問題は、目標値を大きく上回っている。今後も、自分の考えを書く活動や考えを伝え合う場面を設け、活用力をさらに伸ばしていきたい。

【理科】

全体的に正答率が目標値を下回っている。知識・技能の観点では、約5ポイント下回っている。特に、問題内容「動物の体のつくりと運動」、「月と星」の正答率が低かったことから、授業の中で基礎事項を反復する時間や既習事項の復習の時間を設けていく。

2 音楽・図工・家庭・体育・外国語

	児童の実態	おおむね良好：○ 改善が必要：△	授業改善プラン
音楽	●知識・技能 ・多くの児童が歌唱や器楽のコツを理解しているが、技能面に努力を要する児童が数名いる。 ・学習した音楽の要素、仕組み、記号を理解して鑑賞したり表現したりしている児童が多い。 ●思考・判断・表現 ・要素や仕組みの校歌を理解して曲想の変化を楽しみながら表現できる児童が多い。 ●主体的に学習に取り組む態度 ・多くの児童がリコーダーや歌唱の練習に積極的に取り組んでいた。 ・学習の見通しをもち、自身の学習結果を振り返り次の学習に生かすことができる児童が多い。	△ ○ ○ ○ ○	・児童の実態に応じた難易度の楽譜を用意するなどして、スモールステップで取り組めるようにする。 ・ふりかえりの記述をもとに、児童の実態に応じた改善策を助言する

図工	●知識・技能 ・題材に対して、つくり方を理解し、創造的な作品をつくらうとしている。 ●思考・判断・表現 ・自分の思いや考えを言葉で表現し、伝えることが苦手な児童が多い。 ・友人の作品のよさを見付けられる児童は多いが、それを言葉で表現することが苦手な児童が多い。 ●主体的に学習に取り組む態度 ・色や形に関心をもち、粘り強く取り組む児童が多い。少数であるが、意欲が最後まで継続しない児童もいる。	○ △ ○	・児童の発想が広がるような題材の準備や導入の仕方を研究し実践する。 ・作品のめあてを意識させ、それにあった振り返りや鑑賞ができるように指導する。また、鑑賞に適した語彙を提示する。 ・児童が前向きに取り組めるような言葉掛けをする。
家庭	●知識・技能 ・道具の正しい扱い方を身に付けようとし、家庭科で学習したことを土台として家庭生活においても具体的に生かすことが大切であることに気付いた児童が多い。 ●思考・判断・表現 ・日頃の生活において、学習したことを活かした生活の工夫等の発展的活動までなかなか繋がらない。 ・「学習の振り返り」や「今後の生活にどう生かしていくのか」を文章にすることが苦手な児童が多い。 ●主体的に学習に取り組む態度 ・裁縫（手縫い）や調理に対する関心が高く、興味をもって実習できていた児童が多い。 ・最後まで丁寧に作品の製作に取り組める児童が多い。	○ △ △ ○	・技術の向上については、家庭と連携を取りつつ、授業を通して習熟させていく。 ・家庭内での宿題を取り入れ、実践活動を増やす。 ・めあての合った振り返りができるよう、文章のフォーマットを用意、キーワードの提示を行う。
体育	●知識・技能 ・体の使い方など技能面がなかなか定着できない児童も多い。 ・ボール運動については、ルールを理解していくことでできるようになったり、友達と教え合う中で技能が身に付いたりすることがあった。 ●思考・判断・表現 ・振り返りを書くことができるようになってきている。 ・「うれしかった」「楽しかった」と自分の感覚を述べる児童が多い。 ●主体的に学習に取り組む態度 ・どの単元も意欲的に取り組んでいた。 ・技能向上に対して、早い段階であきらめてしまう児童もいる。	○ ○ ○	・運動量を増やすために、家庭でもできる体操やストレッチを紹介する。 ・振り返りを具体的に書けるように個人のめあてを立てるところから具体的に書くよう指導していく。 ・課題解決のための引き出しを増やせるよう、練習方法などを提示する。
外国語	●知識・技能 ・ワークテストの結果は、全体の約6割が大変よくできている。残り4割もおおむねできている。言語材料の提示がない状況で、これまでに学習した言語を用いて、自分の思いや考えを伝え合う技能を身に付けているといえる。	○	・自分の思いや考えを伝え合うために、語彙量を増やし、的確な表現につなげていきたい。

	●思考・判断・表現 - ワークテストの結果は、全体の約6割が大変よくできている。残り4割もおおむねできている。また、児童同士や外国語教育指導員等とのやり取りを通して、自分の思いや考えについて適切な言葉を用いて表現することが身に付いているといえる。 ●主体的に学習に取り組む態度 - プレゼンを通して、自分の思いや考えについて進んで表現しようという意識は、ほとんどの児童ができている。今後も活動の見通しを立てたり振り返りを重ねたりして、言語や表現方法に関心をもって取り組んでいる。	○ ○	自分の思いや考えを伝え合えることに関心を高め、より適切な言葉や表現方法を用いることができるように、その幅を広げていきたい。
--	---	-------------------	---